

Abstract

大規模イベントにおける CBRN テロ対策の取組と課題

河本 志朗（日本大学危機管理学部教授）

2020年にオリンピック・パラリンピックを開催する日本にとって、CBRN（化学剤、生物剤、放射性物質及び核物質）テロへの備えは大きな課題である。CBRNテロが発生すると、検知、防護措置、除染など専門的な知識と技術を必要とするなど対処が困難であり、未然防止に向けた様々な取組が行われているが、大規模イベントにおいて CBRN テロ対策の優先順位が高くないことが課題である。CBRNテロ発生時の被害管理では、組織の文化、目的、権限、手続などが異なる関係機関がそうした違いを乗り越えて連携することが課題となっている。多数傷病者事案への対応も必要になるが、ボストン爆弾テロ事件でのボストン市の対応が参考となる。日本においても CBRN テロ対策に向けて体制整備や訓練の取組が行われてきたが、2020年を控えてさらにそうした取組を強化し続ける必要がある。それは、地下鉄サリン事件の発生地でオリンピック・パラリンピックを迎える日本の責任である。

『国際安全保障』第44巻第2号（2016年9月）69—85ページ。